

## 平成30年度「地盤工学会誌」優秀賞受賞者の決定

平成30年度「地盤工学会誌」優秀賞受賞者が，平成31年3月15日の理事会において下記のとおり決定いたしました。  
なお，優秀賞は6月7日の第61回通常総会で授与いたします。

### 【「地盤工学会誌」年間最優秀賞】

(敬称略)

受賞業績名／業績発表文献	受賞者名
「無人化施工技術を核とした i-Construction による緊急災害対応—阿蘇大橋地区斜面防災対策工事—」／平成30年1月号掲載（報告）	中出 剛（㈱熊谷組） 北原 成郎（㈱熊谷組） 光武 孝弘（国土交通省九州地方整備局） 野村 真一（国土交通省九州地方整備局）
●授賞理由：本記事は，緊急災害工事において無人化施工技術を基礎とした総合的な i-Construction の取り組み事例についてわかりやすく記述されており，今後の大規模斜面災害への対応方法として，実務的な有益性が高いと評価され，多くの読者に支持されました。	

### 【「地盤工学会誌」優秀賞】

「地震・豪雨時の農業用ため池の被害と ICT 等を用いた減災技術」／平成30年4月号掲載（報告）	堀 俊和（(国研)農業・食品産業技術総合研究機構） 泉 明良（(国研)農業・食品産業技術総合研究機構）
●授賞理由：本記事は，ため池のソフト面の防災技術に関して，ICT を用いた情報システムの活用例や将来的な展望，課題を実例や実画像を用いて具体的かつ平易に記述しており，特集テーマの報告としてふさわしい記事であることから，多くの読者に支持されました。	
「地盤は，連続体か？ 粒状体か？」／平成30年7月号掲載（総説）	中田 幸男（山口大学大学院）
●授賞理由：本記事は，地盤の数値計算モデルを連続体と考えるか，粒状体と考えるかという，非常に悩ましくも重要な問題に関して，それぞれの手法の適用範囲や留意点，今後の展望について，具体的な事例を挙げながら初学者にも理解しやすく記述を行っています。特に若手の会員が数値計算モデルを選択する際の重要な案内役となりうるが高く評価されました。	

(注：受賞者の所属は掲載当時)